

「医療データ人材育成拠点形成事業」における工程表

申請担当大学名	京都大学
連携大学名	大阪大学、神戸大学、滋賀大学、鳥取大学、京都府立医科大学、奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学、兵庫医科大学、関西医科大学、近畿大学
事業名	関西広域 医療データ人材教育拠点形成事業

① 本事業終了後の達成目標

本事業終了後の達成目標	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療データ利活用基盤を構築・運営できる「基盤人材」、データを適切に利活用できる「活用人材」、及び、医療データ活用の全体を律し、社会的コンセンサスを醸成する「統制人材」の育成。</li> <li>医療データが生まれてから活用されるまでの情報流の始点から終点までを確実に支え、正しく統制できる人材育成のための教科書等の編纂</li> <li>次世代医療基盤や保健医療データプラットフォームに蓄積されるデータを活用し、医療データサイエンスの国際的牽引役を担えるよう本邦の医療データサイエンスの発展に貢献。</li> </ul>

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
インプット ・ プロセス (投入、 入力、 活動、 行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>専任教員の配置</li> <li>キックオフシンポジウムの開催</li> <li>インテンシブコース1受講生受入</li> <li>インテンシブコース2受講生募集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修士基本コース受入れ:5名</li> <li>インテンシブコース1受入れ:20名(大学院生10名、社会人10名)</li> <li>インテンシブコース2受入れ:3名</li> <li>各コース受講生募集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修士基本コース受入れ:5名</li> <li>インテンシブコース1受入れ:40名(大学院生20名、社会人20名)</li> <li>インテンシブコース2受入れ:5名</li> <li>各コース受講生募集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修士基本コース受入れ:10名</li> <li>インテンシブコース1受入れ:40名(大学院生20名、社会人20名)</li> <li>インテンシブコース2受入れ:10名</li> <li>各コース受講生募集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修士基本コース受入れ:10名</li> <li>インテンシブコース1受入れ:40名(大学院生20名、社会人20名)</li> <li>インテンシブコース2受入れ:10名</li> <li>各コース受講生募集</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの作成と運用</li> <li>拠点会議の開催</li> <li>運営委員及び評価委員の選出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの運用</li> <li>拠点会議の開催</li> <li>運営委員会の開催</li> <li>授業評価の実施</li> <li>評価委員会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの運用</li> <li>拠点会議の開催</li> <li>運営委員会の開催</li> <li>授業評価の実施</li> <li>評価委員会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの運用</li> <li>拠点会議の開催</li> <li>運営委員会の開催</li> <li>授業評価の実施</li> <li>評価委員会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの運用</li> <li>拠点会議の開催</li> <li>運営委員会の開催</li> <li>授業評価の実施</li> <li>評価委員会の開催</li> </ul>
アウトプット (結果、 出力)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>キックオフシンポジウム参加者:150名</li> <li>インテンシブコース受講生獲得:10名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修士基本コース修了者:5名</li> <li>インテンシブコース1修了者:20名</li> <li>インテンシブコース2修了者:3名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修士基本コース修了者:5名</li> <li>インテンシブコース1修了者:40名</li> <li>インテンシブコース2修了者:5名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修士基本コース修了者:10名</li> <li>インテンシブコース1修了者:40名</li> <li>インテンシブコース2修了者:10名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修士基本コース修了者:10名</li> <li>インテンシブコース1修了者:40名</li> <li>インテンシブコース2修了者:10名</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>学内外への本教育プログラムの情報発信</li> <li>連携大学間での事業責任体制の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部機関等への情報発信、ネットワークの構築</li> <li>評価委員会からの指摘・改善項目による次年度事業計画への反映</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部機関等への情報発信、ネットワークの構築</li> <li>評価委員会からの指摘・改善項目による次年度事業計画への反映</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部機関等への情報発信、ネットワークの構築</li> <li>評価委員会からの指摘・改善項目による次年度事業計画への反映</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部機関等への情報発信、ネットワークの構築</li> <li>評価委員会からの指摘・改善項目による次年度事業計画への反映</li> </ul>
アウトカム (成果、 効果)	定量的なもの		<ul style="list-style-type: none"> <li>医療データサイエンスを社会人が在籍しながら学べる教育プログラムにより、産業界との交流が増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療データサイエンスを社会人が在籍しながら学べる教育プログラムにより、産業界との交流が増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療データサイエンスを社会人が在籍しながら学べる教育プログラムにより、産業界との交流が増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療データサイエンスを社会人が在籍しながら学べる教育プログラムにより、産業界との交流が増加</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>本教育プログラムの認知向上(メディア露出2件以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本教育プログラムの認知向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本教育プログラムの認知向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本教育プログラムの認知向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本教育プログラムの認知向上</li> </ul>

③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	常に先進的・革新的な取組内容となるよう自己点検・評価のみならず、医療界・産業界のニーズを取り入れるための努力を欠かさないこと。	それぞれのコースの評価については、創生会議の下に設置する評価委員会を実施する。評価委員会は、創生会議を構成する産官学の機関からの委員、及び、次世代基盤に係る事業者からの委員で構成し、コース受講生から得られたアンケート等に基づいて、提供された講義・実習の教育的価値の他、産官および社会のニーズへの適合性などを評価の対象とする。評価の結果は会議体を通じて各コースを運営する機関にフィードバックし、コース自身の改善に役立てられる他、新たなインテンシブコースの設計等の参考に用いる。
②	代表校のみならず連携校も含め、長期的な展望に基づく具体的な事業継続方針を策定の上、補助期間終了後は更に発展的な取組として実施できるよう工夫して取り組むこと。	創生会議等を通じて産業界、及び、基盤・プラットフォーム運営者のニーズを汲み取り、SRP・共同研究講座等を設置することで、インテンシブコース等も弾力的に継続運用できるようにすることを企図する。特に、創生会議事務局に受講管理等を委託し、実質的に産官向け連携大学院化することで、インテンシブコース運営事務負担等を減じ、持続可能性を高めるようにする。

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(改善を要する点)	対応方針
主要講座の継続が概算要求ベースとなっている等、事業の継続に関して懸念がある。	概算要求の実施に向けて具体的に準備を行っている。詳細は今後調整する予定である。
連携校との連携体制が不明確であり、指導方針や指導責任などが散漫にならないか懸念がある。	京都大学が先ず修士基本コースやインテンシブコースの案を示し、それを連携校に見て頂いて、不足している知識の提供や京都大学設置コースの一部活用した、或いは、コースを模倣した教育を連携校で行って頂くことで、実のある連携を進める予定である。創生会議設立以前から、関西圏の大学・医療機関の医療情報部門は互いに密接な関係にあり、様々な共同研究・共同活動を実施している。役割分担等は連携校の強みを持ち寄るかたちで構成しており、拠点会議において、連携校の強みを融和させ、責任体制の構築を図る。